

2023年（令和五年）

9月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/14～9/20のNYMEX・WTI先物市場は90.16～91.48ドルの範囲で推移した。

9月21日は、前日、米連邦準備制度理事会(FRB)が金利据え置きを決めたものの、年内利上げを示唆、また、米株価も下落したため、景気後退懸念からわずかに続落した。ただ、ロシアが、中央アジア4友好国向けを除くガソリン・軽油の輸出停止を発表、供給懸念が底値を支えた。この日から期近物となった11月物終値は前日比0.03ドル安の89.63ドル。

週末22日は、前日のロシアの製品輸出制限発表から反発、90ドル台を回復した。11月物終値は同0.40ドル高の90.03ドル。

週明け25日は、ロシアが製品輸出制限の一部を緩和(高硫黄軽油と一部の船舶燃料を対象外)するとの発表で、製品需給ひつ迫感が後退、反落した。90ドルを超えると利益確定売りが出やすいとの見方もあった。11月物終値は同0.35ドル安の89.68ドル。

26日は、前日ロシアの製品輸出制限の緩和はあったものの、依然石油製品のひつ迫懸念は強く、反発し一日で90ドル台を回復した。ただ、米国FRBの追加利上げへの警戒感も強く上値は重かった。11月物終値は、前日比0.71ドル高の90.39ドル。

27日は、OPECプラスの減産継続による需給ひつ迫感が高まる中、この日発表の米国石油在庫統計で、原油在庫は前週比220万バレル減と市場予想を上回る取り崩し、特に、原油先物受け渡し点であるオクラホマ州クッシングの在庫も同90万バレル減の2200万バレルと1年2か月ぶりの低水準を記録、米国内の石油需給の引き締まりを示し、大幅に上昇し

た。11月物終値は前日比3.29ドル高の93.68ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月14日～20日の間、93.10～95.00ドルの範囲で推移。9月21日93.20ドル、22日94.20ドル、25日93.80ドル、26日92.80ドル、27日94.40ドル。

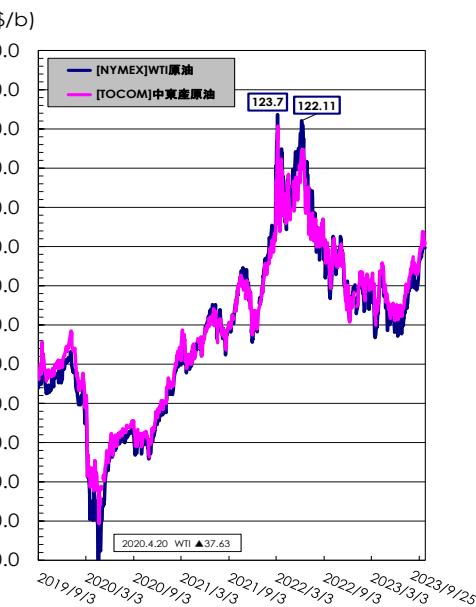
対ドル為替レート(1TTM)は、9月14日～20日の間、147.17～147.84の範囲で推移。9月21日148.43円、22日147.67円、25日148.50円、26日148.95円、27日149.08円。

財務省が9月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は77,221円で前旬比1,565円高、ドル建て84.28ドルで前旬比0.86ドル高、為替レートは1ドル/145.68円。

そのような中で、9月25日時点の価格は、ガソリンが前週比1.5円の値下がり、軽油も同1.5円の値下がり、灯油は同17円の値下がり(18リットルベース)。ガソリン・灯油・軽油とともに3週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は180.5円となった。

9月7日から燃料油価格激変緩和補助金は延長・拡充され、9月28日～10月4日の補助金の支給額は32.1円(従来ベースの補助額44.0円、17円以下部分は30%支給で5.1円、17円を超える部分は100%支給で27.0円)となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	9/17～9/23	2,751	▼ -71	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	74.2	▼ -1.9	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	9/23	10,861	▼ -679	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/25	90.61	▼ -3.09	▲ 10.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/25	89.68	▼ -1.80	▲ 13.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	84.28	▲ 0.86	▼ -26.58
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	77,221	▲ 1,565	▼ -20,350
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	145.68	▼ -1.49	▼ -5.75
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/25	149.50	▼ -0.77	▼ -4.48



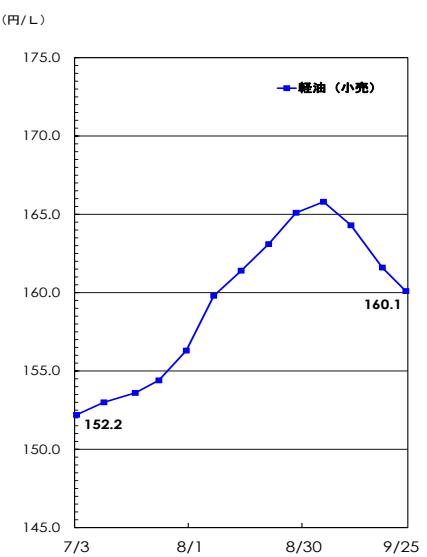
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/17 ~ 9/23	896	▲ 163
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	827	▲ 125
	輸出	"	143	▲ 142
	在庫	9/23	1,550	▼ -74
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	81.4	▼ -1.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	90.0	► 0.0
		(TOCOM/中部)	9/25	78.5
				▼ -9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	180.5	▼ -1.5

※業転、先物価格は税抜き価格



軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/17 ~ 9/23	683	▼ -34
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	532	▼ -112
	輸出	"	117	▼ -31
	在庫	9/23	1,375	▲ 34
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	79.6	▼ -2.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	85.1	▼ -2.8
		(TOCOM/中部)	9/25	-
				▲ 7.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	160.1	▼ -1.5

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/17 ~ 9/23	225	▲ 26
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	-10	▼ -50
	輸出	"	97	▲ 25
	在庫	9/23	2,715	▲ 138
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	79.6	▼ -3.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	89.2	▲ 1.2
		(TOCOM/中部)	9/25	78.0
				▼ -8.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	121.5	▼ -0.9



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(9月21日～27日)のWTI石油先物市場は、21日に3日続落の89.63ドルで始まり、その後は日替わりの不安定な動きを示したが、26日からは続伸、27日は1年1か月振り高値の93.68ドルで終わった。引き続きOPECプラスの減産継続、新たなロシアによる石油製品の輸出制限措置、米国の石油在庫の予想以上の取り崩し等による需給ひつ迫懸念が主な上昇要因。

9月27日発表の22日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比220万バレル減(市場予想同30万バレル減)、ガソリンが同100万バレル減市場予想を上回る取り崩しであった。

EIAによると、9月25日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.1セント安の1ガロン3.837ドル(151.4円/㍑)と3週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.7セント安と12週ぶりの値下がりの1ガロン4.586ドル(180.9円/㍑)。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、9月22日時点で、前週比8基減の507基と3週ぶりの減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年9月17日～9月23日に休止したトッパー能力は41.1万バレル/日で、前週に対して10.1万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は275.1万kLと、前週に比べ7.1万kL減少。前年に対しては12.7万kLの減少。トッパー稼働率は74.2%と前週に対して1.9ポイントの減少、前年に対しては0.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/22.2%増、ジェット/19.3%減、灯油/12.8%増、軽油/4.7%減、A重油/19.2%減、C重油/7.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比0.7万kL減)。軽油の輸出は11.7万kL(前週比3.1万kL減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は82.7万kL(対前週17.9%増)と2週連続で増加した。ジェット3.4万kL(対前週37.9%減)、灯油-1.0万kL(対前週125.8%減)、軽油53.2万kL減)。

(対前週17.3%減)、A重油12.6万kL(対前週18.1%減)、C重油13.5万kL(対前週31.1%減)。

(単位:千kL)

	今週 (9/17～9/23)	前週 (9/10～9/16)	前週比
ガソリン	827	702	▲ 125 (18%)
ジェット燃料	34	56	▼ -22 (-39%)
灯油	-10	40	▼ -50 (-125%)
軽油	532	644	▼ -112 (-17%)
A重油	126	154	▼ -28 (-18%)
C重油	135	196	▼ -61 (-31%)
合計	1,644	1,792	▼ -148 (-8%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月23日時点の在庫は灯油、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは155.0万kL、前週差7.4万kL減。前年に対しては4.3万kL多い。

灯油は271.5万kL、前週差13.8万kL増。前年に対しては54.0万kL多い。

軽油は137.5万kL、前週差3.4万kL増。前年に対しては7.3万kL多い。

A重油は79.4万kL、前週差0.8万kL増。前年に対しては7.1万kL多い。

C重油は207.1万kL、前週差2.4万kL減。前年に対しては42.2万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (9/23)	前週 (9/16)	前週比
ガソリン	1,550	1,624	▼ -74 (-5%)
ジェット燃料	807	844	▼ -37 (-4%)
灯油	2,715	2,577	▲ 138 (5%)
軽油	1,375	1,341	▲ 34 (3%)
A重油	794	786	▲ 8 (1%)
C重油	2,071	2,095	▼ -24 (-1%)
合計	9,312	9,267	▲ 45 (0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月19日～25日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸価格建値は1.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額30.5円を加え、今週の補助金32.1円を差し引いた、9/28～10/4の実質卸価格は0.6円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月19日～25日の製品スポット市況は、9月12日～18日平均と比べ、ガソリン・先物の横ばいと灯油・先物の値上がりを除いて、他の全ての取引で値下がりした。

直近週(9/19～9/25)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/12～9/18)比で、ガソリンは1.6円の値下がり、灯油も3.1円の値下がり、軽油も2.8円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/19～9/25)に、前週(9/12～9/18)比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油も3.0円の値下がり、軽油は2.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は1.2円の値上がり、軽油は2.8円の値下がりだった。

(RIM)		(単位:円/㍑)	
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/19～9/25)	前週 (9/12～9/18)	前週比
スボット価格	レギュラー 81.4	83.0	▼ -1.6
	灯油 79.6	82.7	▼ -3.1
	軽油 79.6	82.4	▼ -2.8

(TOCOM)		(単位:円/㍑)	
[期近物/終値[平均]]	今週 (9/19～9/25)	前週 (9/12～9/18)	前週比
先物価格	レギュラー 90.0	90.0	► 0.0
	灯油 89.2	88.0	▲ 1.2
	軽油 85.1	87.9	▼ -2.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/19～9/25実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.6	► 0.0	▼ -0.8
灯油	▼ -3.1	▲ 1.2	▼ -1.0
軽油	▼ -2.8	▼ -2.8	▼ -2.8
A重油	▼ -3.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.5円安い180.5円、軽油も1.5円安い160.1円、灯油も18.6%ベースで17円安い2,187円(18.6%ベースでは0.9円安い121.5円)。ガソリン・軽油・灯油ともに3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりが47都道府県だった。全国最安値は岩手県の174.8円、その次は北海道の175.1円であった。他方、最高値は長崎県の190.6円だった。最も値下がりしたのは新潟県(同2.7円安)だった。

次回調査時(10/2)のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向] (単位:円/㍑)				
	今週 (9/25)	前週 (9/19)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー 180.5	182.0	▼ -1.5	23/9/4 186.5
	灯油 121.5	122.4	▼ -0.9	08/8/11 132.1
	軽油 160.1	161.6	▼ -1.5	08/8/4 167.4

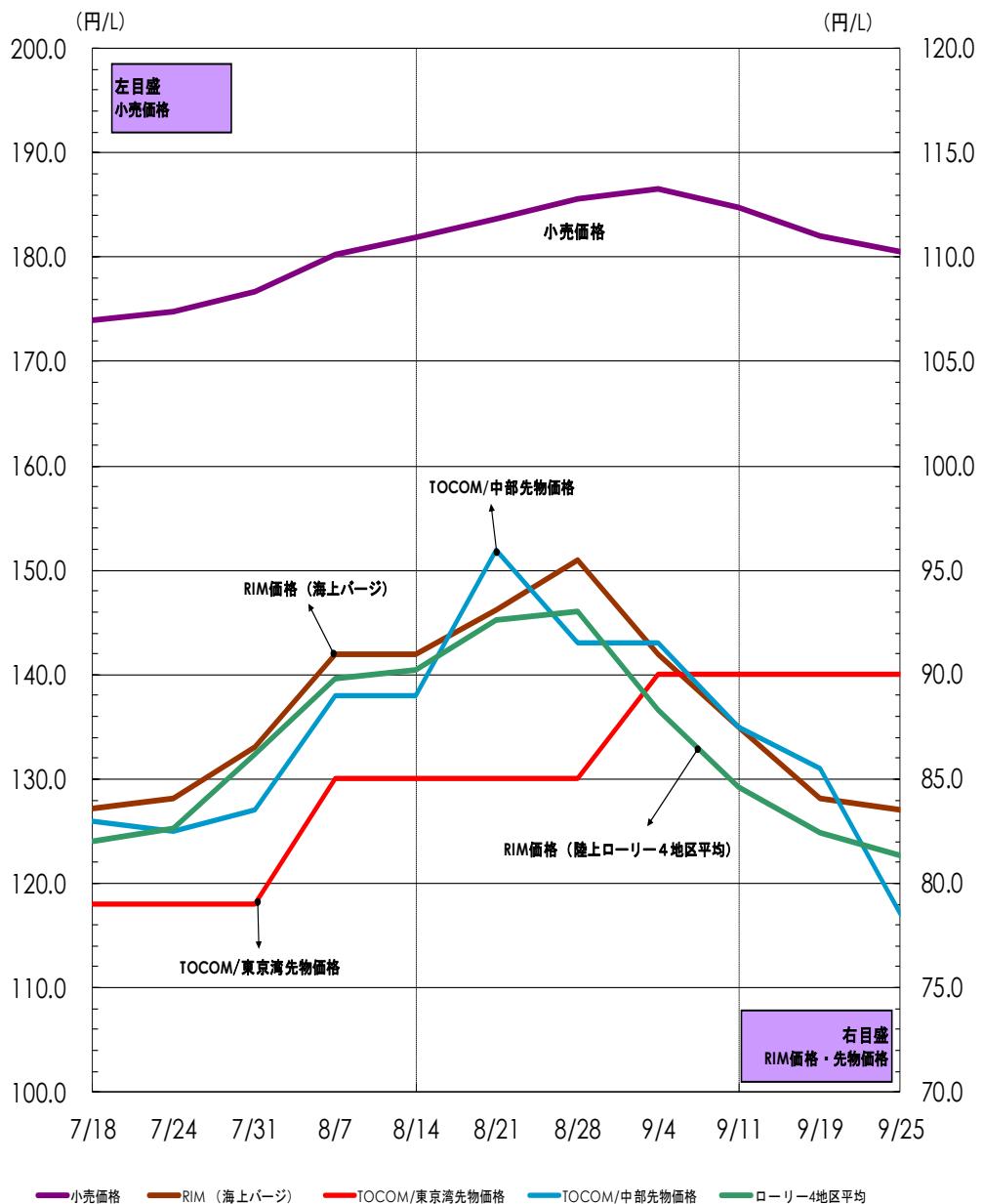
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/7/18 ~ 2023/9/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2023第25号）の公表は、10/6（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。